

FRUITS



2009年10月
全国卒業生代表者会議
沖縄にて

2011年より、全国の卒業生の交流と学生伝道支援のために、全国卒業生会ニュースレターを発行します。今回は創刊準備号をお届けします。

巻頭言：山崎龍一
(総主事 全国卒業生会主事)



KGKとは学生主体の学生伝道団体を支え続けた卒業生の交わりであり、卒業後10年、15年そして20年後に、教会・家庭・職場において証を立てることがKGKの真価であるということ、全国の卒業生の皆さんとの交わりの中で教えられてきました。1991年から始まった全国卒業生代表者会議が、90年代後半から各地区で開催されるようになり、2011年秋の九州地区開催をもって全国一巡することになります。過去約10年に及ぶ交わりの中で、各地区の卒業生と素晴らしい交わりが与えられてきました。

どの地区を訪ねても、「KGKを経験している」という、それだけの理由で信頼し合い、「遣わされた場で生きること」「主にあって働くこと」「クリスチャンホームの建設」、そして「教会を建て上げること」を、安心して語り合うことのできた全国代表者会議でした。主にあって働くことの学び、ファミリーキャンプなど、人生の様々なステージにおけるキリスト者の生き方をKGKスピリットに照らして考え、祈り合い、励まし合う交わりが成熟のプロセスでした。EAGC (IFES東アジア地区卒業生大会)にもKGKは常連参加国となり、他国の卒業生会の働きにも触れ、多くの刺激を受けた10年でもありました。

2011年秋、九州での全国卒業生代表者会議を終えると、全国への第2巡目の「代表者会議」がスタートします。この10年間で、分かち合われてきたことは、全国の卒業生の交わりの充実であり、それをサポートする卒業生会主事を立てようとする試みでした。主事会も、今までの話し合いを真摯に受け止め、各地区卒業生会の励ましとKGK支援を構築するため、卒業生部会を立ち上げ、価値ある卒業生会形成のために仕えて行きたいと願っています。

これから卒業生会ニュースレター「FRUITS」を通して、交流を深め、KGK運動の豊かな実を分かち合うことを通して、信仰によって生きることを学び、次世代の青年(学生)を育て、教会を建て上げる友なる歩みの第一歩をスタートしませんか。

～恵みの分かち合い～

全国卒業生会レター「FRUITS」では、卒業生の励ましとなる学びや、各地区の分かち合いを掲載していく予定です（年二回発行予定。第一号では、結婚についての学びを予定しています。）今回は、2010年夏に行われた二つの行事の参加者から、分かち合いをしていただきます。

EAGC（東アジア地区卒業生大会）に参加して

吉田愛子（関東地区 2004東京医科歯科大卒）

7月31日から8月3日に、香港でEAGC2010が開催されました。テーマ「Living Water Living Well -Christian in the Marketplace from an Asian perspective-」を踏まえ、聖書講解、主題講演、分科会があり、毎晩グループで分かち合いのときを持ちました。

今回の大会で印象的だったのは、毎回の聖書講解の最後に、実際にMarketplaceでキリスト者として歩み続けている方たちの証しがあったことです。学びの内容も非常に濃いものでしたが、その後にいわば生きた具体例を提示され、自分の働き方（職場で・教会で・家庭で等）の甘さや足りなさを痛感しました。

学びの中で心に残る言葉はたくさんありましたが、その中でも特に残っているのは分科会の中で語られた一文です。” Even though we are minority, we can make impact on the society.” 私は職場でも家庭でも、クリスチャンは自分しかいないということを言い訳にして、様々な問題に対し傍観を決め込んではいないだろうか…と思わされました。たとえマイノリティであっても、クリスチャンが真にキリストのしもべとして歩むとき、社会に対し何らかの「違い」ができるのです。使徒たちは決してマジョリティではなかったけれども、その生き方によって大きなインパクトを与えていました。私自身、次のみことばを日々覚えつつ、小さなことにも忠実に、主を証しする歩みをしたいと思います。「父なる神の御前できよく汚れのない宗教は、孤児や、やもめたちが困っているときに世話をし、この世から自分をきよく守ることで。」（ヤコブ1:27）

東アジアのクリスチャンたちと出会い、祈りあったことも素晴らしい経験でした。同じ悩みを共有したり、日本では考えられないような問題を聞いて痛みを覚えたり…それを共に祈りあうことができるという豊かさ！そして今、それらのことを思いめぐらし、祈り続けることのできる恵みも享受しています。

小さな紙面では伝えきれないEAGCの恵み。3年後の大会に参加して体験されることをオススメします。

北海道から沖縄まで ～全国的視野でKGK支援を検討する全国卒業生代表者会議

等農広志（東海地区代表者 1998横浜国大卒）

2005年秋、私は北海道の札幌にいた。北海道KGK事務所として使われている教会に泊めていただいた。旭川で三浦綾子文学館に行った。三浦綾子さんの夫、光世さんにお会いしてお話を伺った。塩狩峠にも連れて行ってもらった。2009年秋、私は沖縄にいた。沖縄県平和祈念資料館やひめゆり平和祈念資料館に連れて行ってもらった。北海道でも、沖縄でも、KGK卒業生会の手厚いもてなしに支えられていた。

ここで筆を止めれば観光日記である。標題にあるように、卒業生会の代表者会議に参加していたのだ。本当は、会議出席こそが最大の目的であり、恵みだったのだ。なぜ地区を持ち回りであえて交通費をかけて代表者会議をもったか。それは現地でしか肌で感じることができない歴史を学び、現地に足を運ぶことで生まれる交わりが与えられるからだ。学生時代の全国集会（NC）を経験された方なら分かると思う。実際に各地区から参加していた「〇〇さん」を通じて〇〇地区のことを思い起こすものだ。この人と人とのつながりは、KGKが大事にしてきた人格的交わり、聖書研究を核とした伝道や訓練に欠かせないものだ。

2010年7月、東京に集った。今年は財務担当者を交えてKGKの財務のことを真剣に話し合った。代表者会議が、交わりを深めたことを土台に具体的なKGK支援策を打ち出せる実力を持ってきたのだと嬉しく思っている。パウロは使徒行伝や手紙の中で、祈りと共に具体的な支援を率直に求めている。代表者会議で全国的視野から具体策を検討し、また何らかの決議がなされることは、支援を深化させようと願う卒業生会会議の必然ではないだろうか。また今後は、卒業生会版の全国集会（2泊程度の合宿）の定期的開催へと広がったら楽しくて意義深いと思う。